

# 西洋音楽史譜例集 音源と共に

～音楽史を理解するための最強のツール～

市川 啓子

## 「譜例集」とは・・・？

文字通り、「音楽の譜例を集めた出版物」ですが、当館の参考図書室 **X-055：譜例集** の棚には、主に音楽史の流れに即して楽譜を集めた選集が並べられています。私の学生時代は、「音楽史」と言えば「グラウトの西洋音楽史: A History of Western Music」、**「譜例集」と言えば「ハムHAM：Historical Anthology of Music」**で学んだものです。「ハム持ってきて!」「あっ、冷蔵庫の中に…」という40年も前の懐かしい笑い話もあります。

今回は、音楽史の譜例集の中から、古いものと新しいもの、そして特徴のあるものの3点をご紹介します。

## HAM：音楽の歴史的選集

Historical anthology of music / by T. Archibald Davison and Willi Apel. Vol.1,2 (Harvard University Press, 1949-c1950)

**X-055/D/1, 2**

この2巻物の大きなアズキ色の譜例集は、出版年は古いですが、古代から18世紀までの音楽を知る上で、現在でも大変有用なツールです。編著者の一人、ウィリー・アーペル(1893-1988)は、ドイツ生まれのアメリカの音楽学者で、『ハーヴァード音楽辞典 The Harvard Dictionary of Music』や『多声音楽の記譜法 The Notation of Polyphonic Music』、『グレゴリオ聖歌 Gregorian Chant』等の著作に

より、アメリカの音楽学の発展に大きな貢献を果たしました。

アーペルの「古い音楽や非西洋の音楽をよく知っている分野と同じくらい注意を払って扱おうとする」姿勢に基づき、第1巻：東洋、中世、ルネサンス、第2巻：バロック、ロココ、前期古典派の音楽の譜例が集められています。とは言え、「古代及び東洋」は、第1巻の初めに中国、日本、シャム(タイの旧称)、ヒンドゥー(インド)、アラビア、ユダヤ、ギリシア、ビザンツ聖歌の8種類の音楽の譜例が各1、2点収められているだけで、やはり、西洋音楽史が主体となっています。また、18世紀までの音楽を2巻に収めるために、悩んだ末、比較的楽譜入手が容易なJ.S.バッハとヘンデルの譜例は省いたとのこと。

魅力は、色々な記譜法によるすべての譜例が現代の五線譜に書き起こされていて、馴染みのない音楽も試奏してみることができること、巻末の解説 Commentary が充実していて、原典 Source や音源 Record へ導きがあること、すべての歌詞の英訳が付されていることと言えるでしょう。

ちなみに、I章の2. Japanese の譜例：Fuki No Kyoku は日本古謡《落の曲》のことで、音構造はこの通りなのですが、音色、響きが全く伝わらず、音を伴わない「譜例集」の限界も感じられます。巻末の歌詞の英訳は、ちょっと笑ってしまいました。興味ある方は、ご覧ください。

## ノートの最新の譜例集 音源と共に

Norton anthology of western music / edited by J. Peter Burkholder and Claude V. Palisca. 7th ed. Vol. 1, 2, 3 (W.W. Norton, c2014)

X-055/N/1, 2, 3

\*対応CD-ROM: CR38,39,40

1923年創業のアメリカの大手出版社ノートンW.W.Nortonでは、音楽史関連の図書を意欲的に出版し、版を重ねています。中でも『西洋音楽史A History of Western Music : HWM』は、グラウトGrout, Donald Jay (1902-1987)著の第1版から始まり、パリスカPalisca, Claude Victor (1921-)に引き継がれ、現在では第9版に至っています。

ノートンでは、音楽史のより良い理解のために、「譜例集」と「音源集」を関連付けて出版し続けており、このたび最新の版、第7版の譜例集が音源を伴って登場しました。

この譜例集では“西洋音楽”のいわゆる“芸術音楽”に限定していますが、音楽史の流れを理解するための譜例を厳選して、古代から現代にいたるまでの220曲を掲載。五線譜にこだわらず、ギリシア、グレゴリオ聖歌等、各々の記譜法で記され、各譜例の傍に詳しい解説が付されています。

最新の版の特徴としては、マシヨー、ジョスカン、バッハ、ハイドン等主要作曲家の全集に新たに組み入れられた作品を加えたこと、20世紀と21世紀の作曲家の多くを加えたこと(例:バーンスタイン、サリアホ、ヴァレーズ、ヴィラ=ロボス等)と、序文にあります。

レファレンス・カウンターでCD-ROMを借りて試聴してみてください。「百聞は一見に如かず」の逆、「百見は一聞に如かず(?)」を実感することでしょう。

難点を言えば、スパイラル・リングによる製本のため、扱いにくいことと、英語を解読しながら勉強しなければならないことでしょうか。

少し版は古いのですが、『A History of Western Music : HWM』の第5版は、翻訳書があります。『新西洋音楽史 上・中・下』戸口幸策/津上英輔/寺西基之共訳(音楽之友社, 1998) [請求記号: C62-676, 677, 678]

この第5版に対応する譜例集は、『Norton anthology of western music / edited by Claude V. Palisca 3rd ed. Vol.1, 2.』 [請求記号: J83-658, 922]です。対応する下記のCDもありますので、日本語で学びたい方はこの3点セットをご利用ください。『Norton recorded anthology of western music. Volume 1, 2.』 [請求記号: XD38359-364, XD37399-404]

## 女性作品の譜例集

New historical anthology of music by women / edited by James R. Briscoe. (Indiana University Press, c2004)

J102-884

\*対応CD: XD54567-569

近頃は女性作曲家に関する研究が進み、前記の譜例集でもファニー・ヘンゼル、クララ・シューマン等が取り上げられています。1987年にジェームス・ブリスコー編による女性作品だけを集めた譜例集が出版されました。そして、2004年に新版が出され、ギリシアのサッフォーから現代のトーマス Augusta Read Thomas (1964-)まで、多くの女性作曲家の作品に触れることができます。対応CDもありますので、興味ある方は併せてご利用ください。